

第1回上海短期語学留学を振り返って

永井智香子

キーワード：中国語短期語学留学、上海

1. はじめに

大学の方針を受け日本人学生の海外派遣を増やすべく、留学生センターが中心となり、2006年度より春休み、または夏休みに短期語学留学を実施している。既習外国語（英語）あるいは、初習外国語（中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語）を3週間、または4週間海外で学び、試験に合格すると単位がとれるというプログラムである。

中国語の場合、2006年から毎年9月に3週間学生を中国北京市の北京教育学院に派遣している¹⁾。そして、北京への派遣に加え、2012年3月に中国上海市にある上海大学に学生を初めて派遣した。

筆者は2006年から6回にわたり、プログラム前半の引率者として北京教育学院に滞在した経験がある。そして、2012年3月に実施された初めての上海大学派遣にもプログラム前半の引率者として参加した。北京と上海での大学の受け入れ体制の違い、また、政治の中心である北京、経済の中心である上海という都市の環境の違いなど、当然のことではあるが、さまざまな違いに驚き、戸惑いもあった。

本稿では第1回上海短期語学留学の概略を紹介するとともに参加学生に実施したアンケートの結果を紹介しつつ、上海大学派遣プログラムを振り返ってみた。

2. プログラムの概要

長崎県と上海市は1996年10月に友好交流関係を締結している。それより以前の1991年には長崎県上海事務所も開設されている。2012年の2月29日に長崎市と上海市を結ぶ定期航路の営業運行が開始され、大きい話題となってい

る。もちろん歴史的つながりも深い。このように長崎県と上海市はさまざまな関係で結ばれている。本稿で紹介する上海大学への派遣プログラムは長崎県のほうから大学に提案があり、それを受けて開始に至ったときいている。

2-1 派遣先の上海大学について

上海大学は1966年より留学生の受け入れを始め、120の国から約18,000人の留学生を受け入れてきた実績がある。同大学の国際交流学院では長期短期さまざまな中国語のクラスが開講されている。また、上海大学は上海市に3つのキャンパスを持つ。長崎大学が学生を派遣したのはそのうちの一つ、延長キャンパスである。延長キャンパスの近くには、大型スーパー、ショッピングモール、コンビニ、ローカル市場、地下鉄の駅、大きい公園などがあり、立地条件に恵まれている。

2-2 合議書の締結と2011年3月の派遣のとりやめ

学生を派遣するにあたり、2010年7月に長崎大学留学生センターと上海大学国際交流学院の間で合議書を交わした。合議書には既成のプログラムに学生を入れるのではなく、長崎大学の学生のクラスを開設すること、1年生を春に3週間派遣すること、諸費用（授業料、宿舍費、食費など）、合議書の有効期間（3年間）などが記されている。

合議書に従い、2011年3月に第一回目の派遣を実施するための準備を始めようとしていた2010年9月に尖閣諸島問題が勃発し、中国で反日運動が盛んになった。留学生センターでの協議の結果、2011年3月の派遣がとりやめられることになった。その結果、第一回目の実施は開始予定の1年後の2012年3月となった。

2-3 プログラムの概略

以下に第1回上海大学短期語学留学プログラムの概略を紹介する。

派遣期間：2012年2月27日（月）～2012年3月19日（月）の3週間。

派遣対象学生：初習外国語として中国語を選択している1年生。

参加人数：15名。内訳は経済学部4名、環境科学部5名、工学部3名、水産学部2名、医学部1名。男女比は男子学生が7名で女子学生が8名。

認定単位：最終試験に合格した学生には中国語Ⅲ²⁾の単位を認定。

学生の募集：2011年11月に2回留学生センターで説明会を実施。各学部の掲示板にポスターを掲示。初習外国語として中国語を学んでいる1年生の学生全員にチラシを配布。

引率：前半を留学生センター教員と国際交流課職員（最初の5日間のみ）、後半を言語教育研究センター教員が担当。

参加者決定から派遣に至るまで：参加学生を対象に2012年の1月と2月に2度のオリエンテーションを実施。

参加費用：渡航費、学費、宿舍費、見学費、食費などをすべて含めて約14万円（この14万円にはプログラム最後の自由参加の一泊二日の旅行代金（1000円）は含まれていない）。

プログラム：プログラムは中国語の学習、文化講座、文化体験、フィールドトリップからなる。具体的には以下の表の通りであった。

	午前	午後	夜
	8:00~9:40 10:00~11:40	2:00~4:30	
2月27日	到着 入寮 プレースメントテスト 換金など		
2月28日	中国語のクラス	キャンパスツアー	歓迎会
2月29日	中国語のクラス	上海博物館	
3月1日	中国語のクラス		
3月2日	中国語のクラス	中国人学生との交流会	
3月3日	バスツアー（行き先：朱家角）		
3月4日	1日自由		
3月5日	中国語のクラス		
3月6日	中国語のクラス	太極拳のクラス	
3月7日	中国語のクラス	中国経済講座	
3月8日	中国語のクラス	企業見学	
3月9日	中国語のクラス		雑技
3月10日	バスツアー（行先：新天地、外灘、豫園、浦東地区）		
3月11日	1日自由		
3月12日	中国語のクラス		
3月13日	中国語のクラス	太極拳のクラス	

3月14日	中国語のクラス	中国経済講座	
3月15日	中国語のクラス		
3月16日	最終テスト	送別会	
3月17日	蘇州、杭州への一泊二日の旅行（自由参加）		
3月18日			
3月19日	帰国		

3. プログラムを振り返って

ここでは帰国後に学生に実施したアンケートの結果を紹介しつつプログラムを振り返ってみたい。アンケートは記述する部分と5段階で評価する部分からなる。5段階評価をする部分では3は普通、5が最もよいプラス評価、1が最も悪いマイナス評価である。5段階評価をする部分には1行のコメント欄も設けた。アンケートを提出したのは参加学生15名のうち9名であった。

3-1 参加動機

アンケートの冒頭に「どうしてこのプログラムへの参加を決めましたか」という記述欄を設けた。結果は以下のものであった。複数回答も多く見られた。

- ・ 中国語が好きだから・中国語を上達させたいから→3名
- ・ 中国に興味があるから・上海に興味があるから→2名
- ・ 中国へ実際に行ってみたかったから→2名
- ・ 留学に興味があるから・留学してみたかったから→4名
- ・ 単位がとれるから→2名
- ・ その他の回答→長期留学のためのステップアップのため

最も多かったのが留学そのものへの興味であることがわかる。最近、長崎大学では協定校からの交換留学生の受け入れが年々増加している。一方で、日本人学生の協定校への派遣は徐々に増えているとはいえあまり多くない。そのような状況の中、留学に興味を持つという回答が多いのはうれしいことだと言えるのではないだろうか。

3-2 中国語のクラスについて

上海到着後に上海大学の都合により、日本の他の大学の学生との混合クラスになると聞かされ驚いた。プレースメントテストの結果、長崎大学の学生は二つのレベルに分けられることになり、初日の授業を受けた。初日の授業の終了後、中国語教員、授業を受けた学生、現地の授業コーディネーター、引率者の筆者らそれぞれの意見をまとめた結果、最終的には長崎大学の学生15名と他の日本の大学からの学生1名の16名のクラスが作られることになった。筆者は一度だけ授業見学がゆるされた。授業担当教員が媒介言語として非常に多く英語を使うことが気になった。そのことをコーディネーターを通じて教員に伝えてもらった結果、担当教員はほとんど英語を使うことはなくなったとのことである。

アンケートの結果であるが、レベル、教師の教え方、進度に関してはほとんどの学生が4あるいは5の評価をしていた。中国語のクラスに関してはアンケートの結果からは特に問題がなかったことがわかる。

3-3 中国人学生との交流

プログラムの表からもわかるが、3月2日に中国人学生との交流会が開かれた。上海大学の日本語専攻の学生との交流会であった。長崎大学の学生は5名ずつ3つのグループで円座になり、一つのグループに中国人学生一人、あるいは二人という形での交流のしかたであった。飲み物とスナック菓子も用意されていた。筆者は見学をしていたが、非常にわきあいあいと盛り上がっているように見えた。しかし、よく聞いてみると日本語での会話が少かったのは残念であった。日本語課程で学ぶ学生は長崎大学の学生が滞在している延長キャンパスではなく、少し離れた宝山キャンパスで学んでいるので、交流会が終わったあとも交流を続けるのは難しいのではないかとも思われた。

アンケートの結果であるが、2が5名、4が3名、5が1名である。コメントは「日本語がぺらぺらだった」「もう少し交流会の回数を増やす等してほしい」「会話するだけだったので、寮の外国人と話したほうが楽しかった」「最初待たされたし、その時限りだったから」などである。5段階評価の結果とコメントから、1回会うだけで交流が続けられないことや日本語での会話は意味がないと思っている者がいることがわかる。

今後、プログラムを続けるなら、中国人学生との交流プログラムのやり方

を変える必要があることがわかる。

3-4 企業見学

3月8日に実施された企業見学の訪問先は宝山鉄鋼であった。上海大学の日本語課程の教員が通訳として同行した。実際に工場を見学する前に宝山鉄鋼の概略についての説明があった。

アンケートの結果は1が1名、2が4名、3が4名とあまりよくなかった。コメントは「なくてもよい」「目的があまりわからなかった」「大して工場内部の説明もなかったのでいらなかった」「それほど記憶にない」である。

3-5 経済講座について

2回実施され、どちらも国際交流学院のスタッフにより中国語で行われた。上海大学の日本語課程の教員が通訳を務めた。最後に質疑応答の機会が与えられた。筆者は1回目のみ見学したが、交際交流学院の副院長がパワーポイントを使いながら、わかりやすく中国経済の現状と今後の展望、問題点などについて講義を行っていた。企業見学もこの経済講座も筆者には経済の中心ならではのプログラムだと思われた。特に経済講座は学生にとっても中国で中国の経済について話を聞く貴重な体験であったのではないだろうか。

アンケートの結果であるが、1が1名、3が4名、4が1名、5が3名であった。コメントは「自分の国をもっと知るべきだと自覚させられた」「とてもよかった。中国を知るためにはやはり国を知るほうがよいし、今後のためにもなるから、企業や太極拳よりこっちが楽しかった」「希望者だけでいいんでは」「なくても良い」である。

アンケートの結果からわかることは中国の経済に興味を持っているものには非常によかったが、興味がないものにとってはただ退屈なものだったのではないかということである。

3-6 太極拳のクラス

太極拳のクラスは2回実施された。専門の教員が平易な中国語で説明をしながら、実際に手本を示しながら行われた。筆者は1回目の授業を見学したが、わかりやすく、よい印象であった。しかし、アンケートの結果には非常にばらつきがあった。結果は1が1名、2が2名、3が3名、4が1名、5

が2名である。コメントには「可もなく不可もなく」「別にいらなかった」「なくても良い」とよいものがなかった。

3-7 見学やフィールドトリップなど

プログラムの表からもわかるが、見学したのは雑技、そして上海博物館である。日帰りのバスで行くフィールドトリップは2回あり、行先は1回目が上海近郊の水郷地帯として有名な朱家角で、2回目が上海市内の有名な観光地である新天地、豫園、外灘、高層ビルが立ち並ぶ浦東地区であった。1回目の朱家角へのフィールドトリップであるが、行先を知らされたのは現地へ向かうバスの中であった。事前に行先を聞いて学生に伝えておくべきであった。

見学やフィールドトリップのアンケートの評価は全体的によかったが、当然のことながら、個人の興味による評価の違いは見られた。特に、上海博物館は歴史への興味による違いが大きいようである。

3-8 最後の週末に実施された一泊二日の有料ツアー

蘇州と杭州へ行くバスツアーで料金は1000元であった。参加は自由であったが全員参加した。

アンケートの結果は1が1名、2が2名、3が5名、5が1名である。コメントは「(他のところに) 観光に行ったほうがよい」「値段の割にはあまりよくなかった。ガイドをきちんとつけてほしい。せっかく観光に来たのに、それが何なのかわからず終わってしまうことがあった」「2万円分は高かった」「楽しかった。友達がたくさんできた」「1000元は高すぎると思う」「とても楽しかったが、上海に行ったのだから別のところもいいが、やはり上海中心の観光が良いと思った」である。アンケートのコメントから観光地についての説明が不十分であったこと、料金が高かったことがわかる。

3-9 宿舎について

長崎大学の学生が滞在した留学生用の宿舎は一つの建物に20のユニットがあるものであった。一つのユニットには二人部屋が4つあり、共同のトイレとシャワールームと簡単な炊事設備（共同の冷蔵庫と電子レンジを含む）があった。そこに住む留学生はユニットの入口の鍵と個人の部屋の鍵を持つこ

とになる。二人部屋にはインターネットの端末もある。長崎大学の女子は8名だったので、一つのユニットを8名で使った。男子は7名で、3人と4人にわかれ、別々のユニットに入った。男子の1名はオランダの学生と部屋をシェアした。

アンケートの結果であるが、3が2名、4が3名、5が4名である。コメントは「期待していなかったので、良くも悪くもない。トイレは汚い」「宿舎について説明がほしかった。洗濯についてなど知らないことが多く、受付の方に迷惑をかけたことがあった」「インターネット以外は特に悪い点はなかった」「これより上でも下でもなく、このランクがちょうどよい」「部屋の作りがよかった。でも、エアコンが奥のほうにあったので、手前側の人は寒がっていた」「5階だからエレベーターがほしかった。最初と最後のスーツケース運びが大変だった」「黒人がうるさかった」「宿舎はとても快適だった」である。アンケートの結果から、多少の不都合はあったが宿舎は特に問題はなかったことがうかがえる。

3-10 食事について

上海大学の延長キャンパスには学生食堂が多く、大きいものだけでも5か所ある。プリペイドカード方式で支払う。3食を学生食堂で食べると1日の食費は日本円で300円以下になるという安さである。学生食堂は味もよく量も多い。延長キャンパスの近くにも安くておいしい食堂がたくさんあり、長崎大学の学生は昼食のみ学生食堂を利用する者が多かったようである。

アンケートの結果は3が1名、4が5名、5が3名である。コメントは「慣れるまでは大変」「慣れた」「安い！うまい！」「食堂、大学の近くの安い店、おいしかったです」「食堂が一番よかった」「うまかった」「食事はとってもおいしかった」であった。アンケートの結果からも食事環境がよかったことがわかる。

4. アンケートの記述式の回答からわかること

アンケートにはいくつか留学の感想を問う記述式の質問項目をもうけた。それらは以下のような質問である。

- ・このプログラムを友達にすすめたいか。
- ・この短期留学で一番インパクトの強かったことは何か。

- ・ 3週間上海へ行ったことがきっかけとなってより長い留学をしてみたいと思うようになったか。

ここではこれら3つの質問への回答を紹介したい。

4-1 このプログラムを友達にすすめたいか

すすめたいというものが9名のうち8名で、1名がすすめたくないという結果であった。以下に簡単に紹介する

すすめたい

- ・ 短期留学を格安で行けることや海外を見ることを考えると行ったほうがよい。留学費以上のものがかえてくると思う。
- ・ 中国に興味のある人なら面白いと思うのですすめたい。
- ・ 自分がとても楽しめたし、今までで一番充実した春休みになったから。
- ・ 外国で生活することはとても刺激的だから。
- ・ 学ぶことは多いと思うから、参加して損はないと思う。
- ・ 自分なりのアドバイスを加えた上ですすめたい。楽しいだけの留学ではないので、楽しいことだけを考えている人にはすすめられない。
- ・ 観光も勉強もできるので、上海に行きたいと思っている人は行くべきだと思う。
- ・ 授業は受け方次第でかなり自分のためになるし、地下鉄を使えば色々なところへ行けるので、自由時間に様々なところへ行けて、結構楽しかったから。
- ・ 上海はとても面白い土地だった。生活も現地の人々の交流も常に全力でパワーを使ったが日本ではない不自由さを楽しむことができる。

すすめたくない

- ・ 語学力の伸びはあまり期待できないから。

「自分なりのアドバイスを加えた上ですすめたい」「楽しいだけを考えている人にはすすめられない」「語学の伸びはあまり期待できない」という記述がある。今回は第一回目の派遣ということでいろいろの不備もあり、その結果がこのような記述として表れていると思う。2回目以降の実施に向けて改善する上で非常に参考になる意見である。

4-2 この短期留学で一番インパクトの強かったことは何か

複数回答も多かった。簡単に紹介したい。

- ・上海という街
- ・非常に押しの強い物の売り方
- ・別の国のお札をおつりで渡されたこと。
- ・日本人の価値観と中国人の価値観は大きく違うこと。
- ・寮でのいろいろな国の人との交流。
- ・オランダ人とルームシェアしたこと。外国の人の文化、考えに触れ、より勉学、特に語学へのモチベーションが増えたから。
- ・生活習慣の違い。
- ・いろいろな文化の違い。特に、レストランやトイレでそれを感じた。
- ・中国人の国民性
- ・中国人の貧富の差を実感して強いカルチャーショックを受けた。

上記の記述から参加した学生は上海をまさに肌で感じていることがうかがえる。わずか3週間ではあるが、実際に現地に住み、学生たちは異文化を体験することができたようである。

4-3 より長い留学をしてみたいと思うようになったか

留学生センターで実施している短期語学留学の目的の一つにより長い留学へつなげるということがある。そのことに関してはどうだったのだろうか。

学生の記述は以下のものであった。簡単に紹介したい。

- ・もっと海外を見てみたいと思う。そして、海外ではどれぐらい教育が進んでいるのか。日本とはどこが違うのかを見てみたい。そして、将来の日本がどのような立場にあるのかを予想できるぐらい、比較できるぐらいになりたい。
- ・なった(2名)。
- ・今回、3週間だったけど、もっとここにいたいと思えたから半年、1年したら、楽しいし、より中国語が身につくだろうと思う。でも、現実問題、自分が長期留学するのは難しそうだ。
- ・お金と勇気があればしてみたい。
- ・とても気持ちが強くなった。一方で現実も見えてきて、お金のことや何を

目的に行くのかなど改めて考え直さなければいけないことも発見できた。

- ・ 3週間ぐらいがちょうどよいと思った。いろいろな国へ行ってみたいと思った。
- ・ もともと海外に長期留学をしたいと思っていたので、その気持ちが強くなった。日本で学ぶのと現地に行って学ぶのでは全然違うことを改めて実感した。現地に行くとその文化、習慣なども身をもって知ることができるので、もっと長くいて色んなことを学びたいと思った。
- ・ 弱まった。もし長い留学をするなら、北米かヨーロッパがいいなと思った。

アンケートを提出した9人の学生の多くが、より長い留学へのよいきっかけになったと答えている。それだけではなく、短期留学に参加したことにより、留学を単なる憧れではなく、現実的にとらえられるようになった者もいたようである。2年生の夏休みに比べ、1年生の春休みは短期留学に行く時期としては非常によいと思う。より長い留学を考えるための時間が多くあるからである。

5. 終わりに

アンケートの最後に自由記述欄をもうけた。そこにはさまざまなことが書かれていた。簡単に紹介すると「上海の短期留学は想像していた以上に楽しくて充実していた。授業も中国語で行われていて、始めは全くわからなかったけど、徐々に理解できるようになって、お店の人と会話ができるようになったのもすごい成長だと思う・・・」「上海の人は優しい人が多く、日本で外国人に親切にしようと思った。コミュニケーションの大切さと楽しさを再認識できた・・・」「寮では中国人以外の様々な国の方々と交流することができて、とても楽しかった・・・」など、参加したことによるよいことについて書かれているものが大半を占めている。一方で、「続けていくには、たくさん問題点があるが・・・今後続けるなら改善しないと生徒の不安をあおることになると思う」という記述もあった。引率者として参加した筆者にはこの記述が何を意味しているかがよくわかる。プログラムの最初の部分の入寮、換金、クラス分けなどで学生を不安な気持ちにさせたということがある。この上海大学派遣プログラムが今後も続くなら、必ず改善しなければならない点である。さらに「もっと中国人と交流したかった」というものもあった。

第1回上海短期語学留学を振り返って

寮で中国人以外の様々な国の人たちと交流する機会が多くあったが、中国へ行きながら、中国人との交流が少なかったのである。この点に関しても改善の余地がある。

もし、このプログラムが今後も続くなら、回を重ねるごとによくなっていくよう改善を加えていきたいと思っている。

注

- 1) 北京短期語学留学については今までに2度、長崎大学留学生センター紀要にまとめた。以下のようなものである。
永井智香子（2007）「第1回中国語海外短期語学研修実施報告－参加学生が書いたアンケートとレポートを中心に－」『長崎大学留学生センター紀要』第15号
永井智香子（2011）「5回の中国語短期語学留学を振り返って」『長崎大学留学生センター紀要』第19号
- 2) 長崎大学では中国語を初習外国語として選択した場合、1年前期に中国語Ⅰ、後期に中国語Ⅱ、2年前期に中国語Ⅲ、2年後期に中国語Ⅳを勉強することになっている。